

## 第9章 調査研究

### 牛の内腸骨リンパ節

発表者氏名：大西綾衣

発表者所属：北海道東藻琴食肉衛生検査所

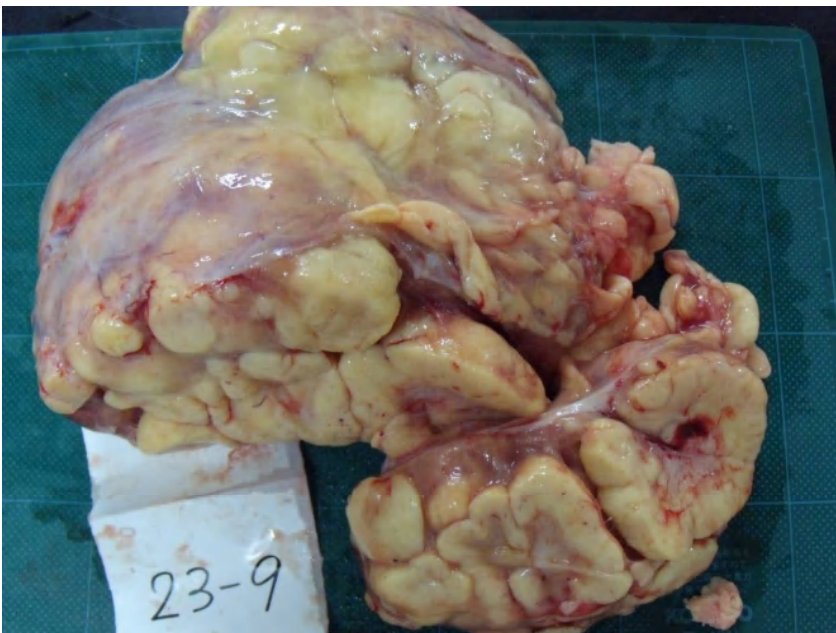
畜種：牛 品種：ホルスタイン 性別：雌 月齢：106ヶ月

生体所見：一般畜として搬入され、特に著変認めず。

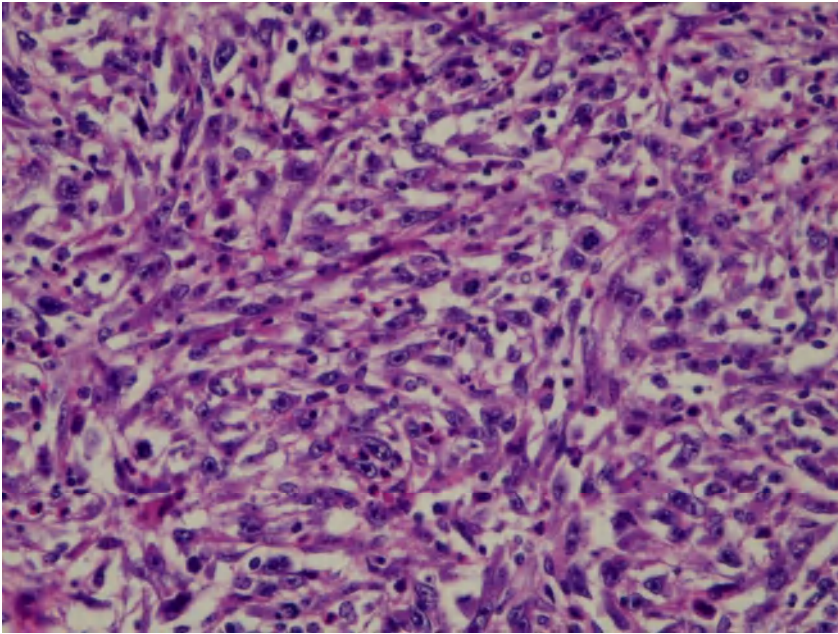
肉眼所見：腸骨下リンパ節が約20×30cmに腫大し、やや光沢のある黄白色調で多数の不規則な分葉状結節を呈していた。断面はやや膨隆し粗造、硬いが弾力性はあった。リンパ節全体は被膜で覆われており、被膜下で軽度の出血と水腫がみられた。

組織所見：リンパ節は腫瘍細胞の著しい浸潤のためにその正常な構造を失い境界不明瞭であった。腫瘍細胞は大小不同の紡錘形～不整形で、核は大きく淡明で円形～楕円形、細胞質は少なく淡桃色で、有糸分裂像が多数認められた。また、線維芽様細胞の増殖もみられ、腫瘍細胞とともに錯綜配列を呈していた。一部に壊死巣がみられた。アザン染色で青色を呈する膠原線維の増生がみられた。免疫染色で腫瘍細胞は $\alpha$ -SMA およびデスミンに陰性、S-100に弱陽性を示した（抗体はいずれもDAKO、二次抗体はDAKO Envision+、帯畜大古岡教授実施）。

診断名：神経線維肉腫



肉眼写真：やや光沢のある黄白色調で多数の不規則な分葉状結節を呈していた。



組織写真 (HE 染色、×400)：腫瘍細胞は大小不同の紡錘形～不整形で、核は大きく淡明で円形～楕円形、細胞質は少なく淡桃色で、錯綜配列を呈していた。

## 豚の肝臓

発表者氏名：大野博士

発表者所属：北海道東藻琴食肉衛生検査所

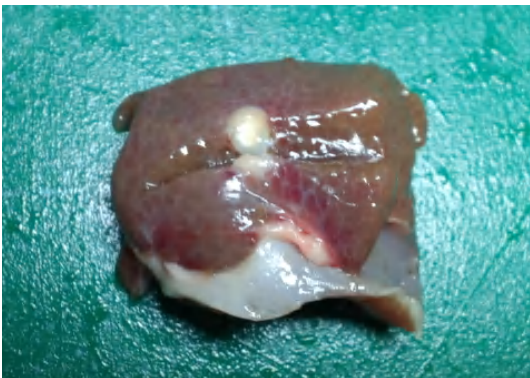
畜種：豚 品種：ランドレース 性別：去勢 月齢：6ヶ月

生体所見：一般畜として搬入され、特に著変認めず。

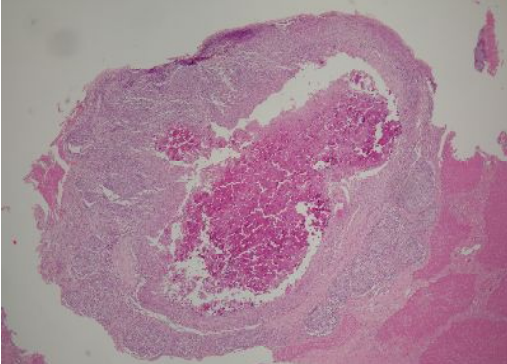
肉眼所見：肝臓側面に直径4mm程度の灰白色～淡白色の結節が散在していた。結節は周囲肝組織との境界は明瞭で、表面は半球状に軽度に隆起していた。剖面において、結節の中心部には1～2mm程度の灰白色で乾燥感を有する組織を認めた。結節の周縁部は直径2～3mm程度で半透明様であり、光沢感を有していた。

組織所見：肝臓側面に認められた結節の中心部には、好酸性の無構造物と石灰化が観察された。これを取り囲むように多数のリンパ球の浸潤、結合織の増生が認められた。結節外層や増生した結合織内には、リンパ球が集簇し濾胞を形成していた。結節は厚い結合織性の被膜に覆われ周囲肝組織との境界は明瞭であった。また、隣接する肝小葉は正常な肝組織像を呈していた。

診断名：リンパ濾胞を伴う好酸球性壊死性肉芽腫性炎



肉眼写真：結節中心部は灰白色で乾燥感を呈する。



組織写真 (HE染色、×40)：中心部は好酸性に染まる無構造物が認められる